

ナレーター

これからある中学校の図書委員会の話し合いの様子を放送します。放送は一回だけです。発言者の名前と、その意見の内容をメモしながらよく聞いてください。メモ用紙は問題冊子の裏表紙を使ってください。また、問題は放送が終わるまで開かないようにしてください。

司会

眺めているだけで時間を忘れてしまつんです。
山田くん、田中さんの提案に対する意見を言ってくれないと困ります。では、ほかに意見のある人はいますか・・・井上さん、どうぞ。

司会

それではこれから図書委員会を始めます。今日の議題は、「読書マラソンの本の数にマンガを入れてもよいか」です。前回の委員会で、「か月間で読む本の数を決めて読書をする」「読書マラソン」を行うことになりました。その後、田中さんから、『読書マラソン』の本の数にマンガも入れよう。」という提案がありました。それでは、田中さん、改めて提案してください。

井上

わたしは、マンガを読んだ数を入れることに反対です。たしかにマンガは読みやすいかもしれませんが、逆に文字だけの本のように自由に想像することができないと思つからずです。主人公の表情や風景を自由に想像することができ豊かさやマンガには少ないので、「読書マラソン」にはふさわしくないと 생각합니다。

田中

わたしはマンガと本は絵があるかないかの差だけで、マンガを読むことも読書だと思いません。絵がたくさんあって、だれにとつても身近なマンガは、本が苦手な人にとつても楽しく読むことができると思つからずです。だから、マンガも「読書マラソン」の本の数に入れるべきだと思います。

吉田

井上さんは、絵があると自由に想像できないと言いましたが、マンガでも「この先はどうなるんだろう」とか、「自分ならどうするだろう」、などと展開を想像することが出来ます。

司会

ありがとうございます。だれにとつても身近なマンガを本の数に入れるべきだ、という意見でした。では、この意見について質問や意見がある人は発表してください。・・・小川くん、どうぞ。

山田

そうそう、だから毎週次のマンガが店に並ぶのを楽しみにしているんだよね。主人公がまだ生きているのか、とかワクワクして、待ち遠しいんだよ。

小川

ほくも田中さんの提案に賛成です。この前、戦国時代の歴史マンガを読んだのですが、当時のくらしや服装はもろろん、敵味方の関係までがとてもよく理解できておもしろかったです。文字だらけの本だったらこんなに具体的に分かりやすくはなかつたと思います。

ナレーター

放送はここで終わりです。それでは問題を聞いてはじめてください。

司会

マンガは文字だけの本よりも具体的に分かりやすいという意見でしたが、ほかに意見がありますか。・・・山田くん、どうぞ。

山田

だったら、ほくは写真がたくさん出ている雑誌が読みたいなあ。ほくは電車が好きだから、いろんな種類の電車の写真を

次のページにも問題があります。

【通過率】 56.9% 【通過率】 68.5% 【通過率】 67.2% 【通過率】 94.3% 【通過率】 97.9% 【通過率】 90.0%

2

次の「」の文の「」部の漢字は読みをひらがなで、カタカナは漢字に直して書きなさい。

赤ちゃんが健やかに育つ。 すこ

寒さの厳しい日が続く。 きび

誤りを指摘する。 してき

不足分をオギナう。 補

大きなフクロ口に荷物を入れる。 袋

町がハッテンをとげる。 発展

3

次の「・」の文の「」部のカタカナを漢字に直したものと、最も適切なものを、あとの「」からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

【通過率】 85.2% 日曜日には校庭が市民にカイホウされる。

ア 解放 イ 会報 ウ 開放 エ 快方

【通過率】 83.0% 妹のアイシヨウは「さっちゃん」だ。

ア 相性 イ 愛唱 ウ 愛称 エ 哀傷

4

【通過率】 65.1% 次の「ア」の文で「」部の慣用句が正しく使われているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 僕はだれも「二」の句がつけないことをいつかきつとしてみせる。

イ 彼のピアノ演奏を聴いた会場の人々はそのすばらしさに音をあげた。

ウ 全国大会出場が決まっていたのだから手が出るほどうれしかった。

エ 参加するかどうか返事がないのでしびれをきらして電話をした。

【通過率】

85.2%

5

次のア～オの文について、敬語がすべて正しく使われているものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア ピアノの先生は母に私の演奏について申しました。

イ あなたはどちらの学校を訪問いたしましたか。

ウ 僕は担任の先生からそのお話をうかがいました。

エ 明日、私が映画をご覧になるときにお会いしましょう。

オ この中からお好きなケーキをめしあがってください。

【通過率】

82.9%

6

ことばのきまりからみて次の文の——部A、Bの関係と同じものをあとのア～エの文から一つ選び、記号で答えなさい。

冬空に 白い 鳥が 飛んでいく。

ア 行楽客が 海や山に 出かける。

イ 北風が 激しく 吹いている。

ウ 今朝は いつもより 早く 起きた。

エ 庭に 美しい バラが 咲いた。

【通過率】

49.4%

7

次の文から 主語と 述語に当たる文節をそれぞれあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

とても 美しいね、瀬戸内海の 夕焼けは。

ア とても 美しいね

ウ 瀬戸内海の 夕焼けは

【通過率】

58.9%

主語…エ
述語…イ

「僕」(さとる)は小学六年生。仲良しのこうすけは転校生で、事情があつておばに預けられていた。「僕」とこうすけは、なんとかして幻まぼろしの魚サツキマスを釣りたいと思つていた。ある日、仕掛けた浮きを探していた「僕」は、魚の姿を見たと思つた瞬間溺おぼれてしまう。「僕」はこうすけに助けられたことを病院のベッドで知つたが、すでにこうすけは前に住んでいたところに帰つてしまつていた。

それは、あまりにも突然の別れだった。

先生は、もう一度ベッドのわきまで来ていった。

「さとる、お前には黙つていたが、こうすけが俺おれの家へ訪ねてきたときに、この話は決まつたんだ」

「こうすけは、なにもいつてなかつたよ」

「いいにくかつたんだろうなあ」

「みずくさいよ」

「そつ、おこるなよ。あいつだつて苦しんだはずさ」

「だけど……」

「帰るまでにごうしても、さとると、サツキマスを釣るんだつて、絶対釣るんだつていつていたよ。思い出をつくりたかつたんだろうなあ」

「……………」

僕は、口を閉ざすと、布団ふとんをがばつとかぶつた。これ以上しゃべると涙がこぼれそうだった。

「さとる、先生に失礼でしょ」お母さんの声がした。

「いや、いいんですよ。退院したら、元気な顔で学校に来いよ。

みんな待っているからな」

ボタンとドアを閉める音がして、足音が遠ざかつていった。布団の中で僕の体は、ブルブルと震えた。こぶしを握りながら、歯をくいしばりながら、こうすけの顔を、こうすけの声を、

二人でためしたたくさんの遊びを思い出した。考えれば考えるほど涙がこぼれそうになる。しかし、こうすけの最後にいった言葉を思い出して、涙をこらえた。

「なんでサツキマス一匹に、こんなにムキになっているんだろつ」

こうすけが魚を食べるためでも、楽しむためでもなく、僕との思い出のために釣ろうとしていたことが、このときわかつた。

二日後、僕は退院した。

朝の回診を終え、荷物をまとめてからお母さんとタクシーで家にむかつた。五日間入院していたとはいうものの、三日間は眠り続けていたわけで、その時間の差がみょうな感じだった。タクシーの窓から見る町は五日前と変わりないものの、もう、

この町にこうすけがいなくということが、僕には信じられないことだった。昨日も一昨日もそのことはかり考えていた。

「さとる、ぼーっとしてるけどだいじょうぶ？ どこかおかし

いんじゃないの」お母さんがいった。

「だいじょうぶだよ」

自分のことはよくわかつていた。もし僕の体に悪いところがあるとすれば、心にぽかんと空いた穴だった。それは病院で治る穴ではないのだ。

タクシーはバイパスを左折し、天神橋を越えた。

「あつ、運転手さん止めて」

「どうしたの、さとる」

「いいから」

「だめよ、帰らなきゃ」

「すぐ帰るよ」

僕は車から飛びおりと、土手を駆けおりた。どうしてもかくれがへ行きたかつたからだ。二人の思い出の場所だし、ひょつとして手紙でも置いてあるかもしれない。

いつものように、草や木のトンネルを四つんばいで進むと、いくぶんあたりの草木が、色あせてきたような気がした。

かくれがはしんと静まりかえつていた。初秋の木もれ日が落ちる守り神の部屋、きれいに片づけられた物置、丸いこうすけの部屋に四角い机の僕の部屋、そしてトイレにいたるまで、僕はゆっくりと見てまわつた。しかし、手紙らしいものはなに

つなく、すべての部屋から、二人の匂においが薄く消えかかつているような気がした。

「ちえつ、手紙くらい書いておけばいいのに」僕は、一人でつぶやくと、川へおりた。

僕を呑み込んだ河童淵かっぱぶちを見るのは怖いような気もしたが、川は、何事もなかつたように青く静かに流れていた。そして、生けすの近くまで来たとき、僕ははつとした。いつもなら、ふたなどしない生けすの上に、きみどり色をした芭蕉はしゅうの葉っぱが、たくさん浮かべてあつたのだ。

僕は、駆けよつて生けすをのぞき込んだ。そして、両膝ひざをつき、両手でそつと芭蕉の葉っぱをよけてみた。

(なにかいる！)

葉っぱの下から、ゆらり現れたのは一匹の大きな魚だった。生まれて初めて目にする魚ではあつたが、それが何者であるかは、すぐにわかつた。

「サツキマスだ」僕は、思わず叫んだ。

こいつはまぎれもなく、僕が溺れたあの日、あの青い淵の底で、見たやつだった。そつと手を当てて見ると、六十センチはある。以前、こうすけに教わつたように、両手を冷たい水で冷やし、そつと、サツキマスを水の中で抱いてみた。サツキマスの体は横たわり、銀粉を散りばめたような鱗うろこが、ぎらりと光つた。美しかった。

【通過率】

61.7%

——「だけど……」とありますが、「……」の部分には「僕」のどのような気持ちがこめられていますか。その気持ちを表したものととして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア なにもいわずに去ったこうすけの気持ちを思うとかわいそうだ。

イ こうすけが去るのを予想していたとはいえあまりにはやすぎる。

ウ 黙って去っていくなんてこうすけは友だちなのによそよそしい。

エ 黙って去ってしまったこうすけはとても男らしくてかっこいい。

【通過率】

71.6%

——「もうこの町にこうすけがいないということが、僕には信じられないことだった」とありますが、このときの「僕」の気持ちが比喩（たとえの表現）を使って表されています。その言葉を十字で書き抜きなさい。

心にぽかんと空いた穴

【通過率】

91.6%

——「あっ、運転手さん止めて」とありますが、「僕」はなぜこのように頼んだのですか。その理由を次の（ ）に当てはまるように三十字以内で書きなさい。

（ ） **かくれがに行けば、こつすけからの手紙があるかもしれない**

（ ） と期待したから。

【通過率】

83.6%

——「手紙らしいものはなに一つなく、すべての部屋から、二人の匂いが薄く消えかかっているような気がした」とありますが、このときの「僕」の気持ちを説明したものととして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア こうすけと過ごした場所はあるのに、手紙の一つもないのがさびしく、二人の楽しかった思い出が消えていきそうにさえ感じられるという気持ち。

イ こうすけとの思い出の場所がある限り、手紙が置かれていないことは気にせず、二人で過ごした楽しい日々のことを忘れないでおこうという気持ち。

ウ こうすけが部屋にいないことはわかっているが、手紙くらいはあると思っていたので、二人でかくれがをつくったことさえ悔やまれるという気持ち。

エ こうすけとつくったかくれがは静まりかえり、彼からの手紙もないのが現実である以上、二人の思い出が消えてしまってもよいのだという気持ち。

【通過率】

65.2%

印以降の「僕」の気持ちの変化を表したものととして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 立腹 好奇 希望 失望

イ 残念 不安 安心 恐怖

ウ 後悔 不信 期待 歓喜

エ 不満 疑問 驚き 感動

放送の仕事をしていると、いつのまにか言葉に敏感になってきて、気になる言葉が増えてきます。「雨模様」というのも、そのひとつです。

ニユースを見ていると、「きょうはあいにくの雨模様となつて……」とアナウンサーが原稿を読んでいるのですが、画面を見ると、雨が降っています。ありやりや、と私が思つのは、こんなときです。

「雨模様」とは、正しくは、「今にも雨が降りそうで降らない状態」のことです。ですから、雨が降っているのは、雨模様という言葉は使えないはずなのですが、語感から受ける印象のせいでしょうか、つい雨降りの描写に使いたくなるのでしょうか。

一九九九年(平成十一年)八月、甲子園の夏の高校野球で群馬県勢として初めて優勝した桐生第一高校を応援する地元の様子を伝える「新聞記事の見出しに、「鳥肌たつ」という活字が躍っていました。

とうとう新聞までがこの表現を使いだしたのか、とがっかりして、それこそ鳥肌が立つ思いで記事を読むと、「二〇代の女性」の発言として紹介されていました。新聞記者が使った表現ではなかったのですが、そのまま見出しにした担当者は、「鳥肌たつ」の意味がわかっていたのででしょうか。

言うまでもないことですが、「鳥肌が立つ」とは、ぞっとしたときや寒いときに、皮膚の筋肉が収縮して、まるで鳥の肌のようにブツブツができることを言います。ぞっとしたとき、つまり悪いニュアンスの言葉なのですが、いつのまにか「感動した」という意味に使われるようになりました。

これでは、たとえばお芝居などを見た後で、出演者に向かって、「思わず鳥肌が立ちました」などと言うと、言った本人は「感動した」という意味のつもりでも、言われたほうは、「ぞっとするほど寒い演技だった」と言われたと誤解しかねません。

NHK放送文化研究所が、「鳥肌が立つような感動を覚えた」という言い方について、一般の人がどう思うか尋ねたところ、三〇代以上では「おかしい」と答えた人が多数なのに対して、二〇代では「おかしくない」という人の方が多くなっています。この表現が、若者から広がったことを示しています。

では、感動して鳥肌が立つことはないのか。NHKの『ことばてれび』という番組が実験したところ、感動的なドキュメンタリー番組を見た人が、実際に鳥肌が立ったそうです。(NHKアナウンス室編『失敗しない話し言葉』)

感動したときに鳥肌が立つということは、生理学的には間違いないということになります。やがて、この使用法が社会に定着していくでしょう。

このように、もともとは誤った言い方でも、社会に広く受け

入れられることで、正しい言い方として認知されることがあります。最近の例では、「早急」や「重複」があります。「早急」は「さつきゅう」という読み方しかなかったはずなのですが、多くの人が「早」の「そう」という読み方に引きずられて、「そつきゅう」と読むようになりました。「重複」という言葉も、正しくは「ちようふく」なのですが、「じゅうふく」と読む人が増えてきました。「重」の「じゅう」という読み方に引つ張られたようです。

「ちよう」という読み方は、「軽重を問う」や「重宝する」など古めかしい用例が多く、なじみがうすいたために、つい、「重量」などの「じゅう」の読み方をあてはめてしまったのででしょう。

本来は間違った用法でも、社会の多数派が使うようになれば、正しい用法になります。

言葉の使い方とは、「多数決の論理」なのです。

このため、NHKでも、「そつきゅう」「や」「じゅうふく」という読み方を許容することになりました。積極的にこちらの読み方をするわけではありませんが、間違い扱いはしないことになったのです。「重複」については、読み方の重複を認めることになったのですね。

(池上彰「日本語の『大疑問』」より)

注 寒い…ここでは、「貧弱である・お粗末である」の意味。

問題作成上一部省略があります。

「そのひとつ」とありますが、「そのひとつ」とは何の一つですか。文章中から書き抜きなさい。

気になる言葉

「きょうはあいにくの雨模様となつて……」とアナウンサーが原稿を読んでいる」とありますが、筆者はこのことをどのようにとらえていますか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「雨模様」という言葉を雨降りの描写に使うことは新鮮である。

イ 「雨模様」という言葉を雨降りの描写に使っているのは間違いである。

ウ 「雨模様」という言葉は雨降りの描写に使うことこそふさわしい。

エ 「雨模様」という言葉を雨降りの描写に使ってもいい場合がある。

「新聞記事の見出しに、『鳥肌たつ』という活字が躍っていました」とありますが、「新聞記事の見出し」では「鳥肌たつ」をどのような意味で用いていたでしょうか。次の() () に当てはまるように文章中から書き抜きなさい。

() () という意味。

【通過率】 73.0%

【通過率】 80.6% 【通過率】 44.0%

——「本来は間違った用法でも、……正しい用法になります」とありますが、このような言葉の変化に関する考えに対してあなたはどうか考えますか。次の条件にしたがつて自分の考えを書きなさい。

【条件】

- 1 そのように思う、思わない、どちらとも言えない、のいずれかの立場に立って、意見を書くこと。(どの立場でも採点に影響はありません。)
- 2 1の理由を、本文中の例以外の具体例をあげて説明すること。
- 3 書き出しや段落のはじめは、一ますあけること。
- 4 「、」や「。」も一ます使うこと。
- 5 百字以上百五十字以内で書くこと。

正しい用法になると思う。現在正しいと思われる用法でも、昔は存在しなかった表現が多数あるはずである。極端な例ではあるが、古典で用いられている日本語と現在の日本語とは、大きく異なるではないか。言葉は時代に合わせて移り変わっていくものであり、一時の流行語であっても、多くの人々が自然に用いるのであれば、それは正しい用法と言えるはずである。